科目区分　　教職科目Ａ
授業科目名　　教育本質論

他者と学び合う授業づくり

学校教育・二宮　衆一

１．授業の概要

本年度、前期の教育本質論では、第１回から９回までを課題図書の講読に、第１０回から１４回までを課題型グループワークにあてた。前半の講読については、課題図書として指定した藤田英典『義務教育を問い直す』、中井浩一『論争・学力崩壊』、佐藤学『「学び」から逃走する子どもたち』を利用しながら授業を行った。授業の流れは以下の通りである。

①事前に予習箇所を指示し、担当となっている学生グループに語句説明や概念理解に関する問題の作成を依頼。
②授業では、担当の学生グループが作成してきた問題を出題した後に、応用問題として論争となっている事項やレポート課題等を出題。
③学生が作成してきた問題例としては「TIMSS と PISA とはどんなものですか」「日本型高学力の特徴とは」などであった。こうした問題をグループの中で話し合わせることで、学生たち自らが、わからない点を聞き合ったり、教えあったりすることをねらった。そして、その過程で課題図書の内容理解を深めることを目指した。
④応用問題としては、「授業時数の増加や受験プレッシャーの復活は学力向上のための対策として有効と考えられるか」「佐藤学、市川伸一、和田秀樹、西村和雄など、これまで課題図書の中で紹介された論者を『ゆとり教育に賛成・反対』『学力低下について憂慮・楽観』という指標にもとづき分類しなさい」といった問題を出題し、グループの中で話し合いをさせた。また、「競争原理の導入によって学校教育は改善されると思いますか？あなたの意見を『学校選択制』を例に取りながら述べなさい」という課題を与え、ポスターを作成、発表するという活動なども行った。

２．アンケートの概要

試験を行った際、学生に無記名式の授業アンケートを配布し、協力をお願いした。実施したアンケート項目については、以下の通りである。

１．事前に本を読んでき、質問されたことについて四人グループで協同学習するやり方はどうでしたか。意見を聞かせて下さい。

２．教育を考える上で役に立った・学ぶことがあった授業は何ですか？それはどの授業ですか、またその理由を教えて下さい。

３．その他に何か、アドバイス等があれば記入して下さい。

アンケート回収数は４０であった。

３．授業の自己評価

①アンケート項目１について

本年度、課題図書の講読については、３２人が以下の抜粋にあるような肯定的な評価を書いていた。「授業を行う前に自分で本を読んでくることで何について学習するのか、どんな問いが出されるだろうかというように自分の頭の中で考えることで授業が始まると、何についての学習なのかを理解しやすかったと思いました。また、四人グループで協同学習をするということで個人ではなくグループの一員としての責任を感じることで、より本を読んでこなければいけないという意識が高まったように感じました」。「自分がわからないところをグループの他の人が補ってくれるため勉強になるし、話し合いも進んだ」。「グループでの協同作業はよいと思う。グループの中で意見を交換しながら学習を進めることで自分の持つ意見も確かなものになっていくし、間違っていれば、正しい方へ導かれていくからです」。

以上のように四人グループでの協同学習は概ね学生たちも肯定的に捉えている。特に今年度は、

「自分がわからないところをグループの他の人が補ってくれる」というような感想が昨年よりも多く出てきた。授業中、グループワークに入る度に「ひとりで考えずに、グループで考えましょう。４人いれば必ず誰かがよいアイデアを出してくれます」と、言葉を投げかけてきた。学生たちの中には、学習は個人で行うものという考えがあるのではないかと感じられていたので、そうした学習観を少しでも変えるきっかけになったのではないかと考える。

こうした肯定的な評価がある一方で、今年度もやはり以下のような否定的な評価も小数（４人）ではあるが、あがってきている。「四人グループなので、誰かがやってくれるという甘えがあった。また、この人ならやってくれるとまかされることもしばしばあったので少し苦しかった」。「あまりよくないと思います。班の誰かが本を読んでいるだろうという甘い考えが出てきます」。

こうした予習の問題は昨年も出てきたことである。そのため本年度は、これまでと同様に授業中、折に触れて、必ず予習すること、また予習をしてこなかった場合、他のメンバーの迷惑になることを繰り返し伝えると同時に、学生自身に語句確認等の問題を作成させることで授業への参加を促す試みを行った。この試みについては、アンケートからその効果をはっきりとうかがうことはできない。しかし、学生の感想の中には「事前に本を通して学んだこと、疑問に思ったことを四人で質問について答えたり、逆に質問したりすることで、本の内容について理解が深まったと思います。私は質問する立場に立った時が一番理解できていたように感じました」という記述もあり、少しではあるが、効果はあったように思える。

予習の有無をチェックし、評価対象とするというような管理的手法をとるのではなく、できるだけ学生の自発性や意欲を喚起することで予習に結びつける手法を引き続き工夫していきたいと思う。なぜなら、昨年と同様、学生の中からは「四人グループで協同学習をするということで個人ではなくグループの一員としての責任を感じることで、より本を読んでこなければいけないという意識が高まったように感じました」という意見があがっているからである。この学生は、おそらく共に学び合いながら、新しい知識を得る喜びを経験したからこそ、こうした「責任感」を感じるようになったと考えられる。そうした経験を味わうことのできる授業を創りだしたい。

②アンケート項目２について

学生の答えは大きく４つに分類できた。一つめは、学力問題についてである。「特に日本型高学力や学びの逃走などはこれから先、教師になったら考えなくてはならないことなので現状を知れたり、色々学べてよかった」といった意見に示されるように、授業の中で扱った課題図書や４つの学力問題などを記述している学生が４人いた。

二つめはポスター発表である。「競争原理の導入によって学校教育は改善されると思いますか？あなたの意見を『学校選択制』を例に取りながら述べなさい」というテーマを与え、ポスターを作成、発表するという、この活動については 13 人が肯定的な評価を書いていた。その理由としては「まとめることで学校選択制について考えることができたし、他の班と比較することで違う意見などから学ぶこともあった」「自分たちの考えをまとめなければならないので、要点を確実に書く力がついたし、人に見せることを前提に作成したので、発表に対する工夫を考えることができて、将来教える立場になった時に必要な能力を垣間見たように思えたから」などがあがっていた。

この授業では、ポスター作成にあたって図１のような形式を指定し、以下の４つの注意点を示した。①自分たちが主張したいことを簡潔に表現できるタイトルを考えること。②文章はもちろん、絵や図表などを用いてデザインに工夫をこらすこと。③「意見の整理」では、単に意見を羅列しないこと。誰がそうした意見を述べているのか、論者の意見の根拠はどこにあるのかなどを明示して書くこと。④「私たちの主張」を述べる際、「思い」を述べるのではなく、ビデオで見たことや新聞記事やテキスト中に書かれていたことを引用したり例示しながら述べることである。このポスター発表では、本や新聞の情報を整理する中で学校選択制のメリットとデメリットについての理解を深めること、自分たちの主張を論理的に表現する力を養うことをねらいとしていた。上記のような学生の感想からは、このねらいが概ね達成できたことを感じさせ、本年度の授業の中では最も成功した授業であったと思う。

三つめは授業の中で見せたビデオについてである。11 人の学生が肯定的な評価を書いていた。その理由としては「全く異なった教育方針の学校の様子をみることができ、教育の仕方の幅広さを実感することができた」「各学校の特色とよく聞くけれど、具体的にどんな取り組みが行われているか、見れたから」などがあげられていた。

本授業では、自分の教育観を相対化することを授業の目標の１つとして考えている。伊那小学校

や土堂小学校など、特色ある学校の取り組みをビデオを通して実際に見ることは、この目標を達成する１つの方法であると実感できた。

③課題

アンケート項目２や３に最も多くあがっていた意見は、授業中に扱ったテーマに関する結論や問題に対する答えが聞きたかったというものであった。本授業では、学生から質問を出してもらうことで授業の中に応答関係を創り出す試みを行った。その１つのきっかけとして問題に対する答えは質問がない限り、授業者からは発表しないというルールを試行してみた。実際に行ってみると、特定の３つのグループから質問が出されるのみで、他のグループからは質問が出されず、半分以上の問題に対する答えが曖昧なまま授業が終わってしまった。そのため、こうした意見が出てきたと考えられる。

分からないこと、疑問に思ったことを質問するという力は、学生たちが身につけなければならない１つの力である。しかしながら、大人数の授業になると、学生は質問することに気後れしてしまう。質問の機会を設定するだけではなく、学生が質問しやすい方法を何らかの形でつくりだしていくことが今後の課題である。

図１

タイトル
（例　学校選択制のウソ・ホント）
①学校選択制とは
②意見の整理（学校選択制に関する教育委員会や研究者、教師、マスコミなどの意見）
③学校選択制についての私たちの主張

図２　学生の作成したポスターの一例